

## 編集後記

3月の編集委員会出席の  
り、少し早起きして中央本線  
まわりでプラ核学会事務所のある千種まで行った。自宅の  
ある八王子から、特急「あずさ」と「しなの」を塩尻で乗  
り継いで行った。時間はかかるが、1回の乗り換えだけで  
到着することができる。その日は、よく晴れていて雪を抱  
いた中央アルプス、ハヶ岳が美しい姿を見せており飽きる  
ことがない車窓であった。しかし、塩尻から中央西線「し  
なの」にあわただしく乗りかえると、すぐに雲行きがあや  
しくなってきた。木曾の山中に入ると雪が一面舞う景色に  
なった。曲線区間の多い線区であるが、自慢の振り子制御  
式の「しなの」は減速することなく1時間ほどで木曾山中  
を通り過ぎてしまう。やがて中津川を過ぎると雪もなく晴  
れ渡った景色が広がっていくという、めまぐるしいほどの  
景色の変化である。千種駅を降り、ここで現実にもどり「今  
回の小特集企画提案はどう評価されるのかな」と心配しな

がら事務所向かった。

めまぐるしいといえば、大学にいと2月から3月の、  
この時期は最もあわただしい季節である。入試業務から始  
まって学部や大学院生の卒業論文および修士博士論文発表  
会、審査会、卒業式と行事が続き、定年退職者の最終講義、  
送別会等が重なる。少し息がつけると思いきや、すぐに新  
入生関連行事が始まってしまうという具合の毎年くりかえ  
されるシーンではあるが印象深い季節でもある。東京の気  
候もそれにつられるように、この2ヶ月寒暖がめまぐるし  
く変化していて、3月18日には桜の開花宣言までされた。  
同じ日に、今年3月定年のS教授の最終講義が行われた。  
40年間のプラズマ核融合研究のまとめを聞いたあとで、  
忙しさを理由に自分の研究が、つついおろそかになっ  
ていることに反省することしきりの今日この頃である。

(相澤 正満)

### プラズマ・核融合学会役員

会 長	高村 秀一	副 会 長	山中 龍彦	藤原 正巳	常務理事	岡村 昇一 (総務委員長)
理 事	井岡 茂 (財務委員長)	榎戸 武揚	田辺 哲朗 (編集委員長)	堀岡 一彦	岡野 邦彦	二宮 博正 (広告委員長)
	西原 功修	松岡 啓介 (企画委員長)	長 照二 (出版委員長)	佐藤浩之助	永見 正幸 (プログラム委員長)	吉田 善章
監 事	天岸 祥光	長谷川 満				

### プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディター 田辺哲朗 (名大)

エディター 関子秀樹 (九大)、関 昌弘 (原研)、田中雅慶 (核融合研)、西村博明 (阪大)、福山 淳 (京大)、藤山 寛 (長崎大)  
編集委員 相澤正満 (日大量科研)、安藤利得 (金沢大理)、井深真治 (東工大院理)、入江 克 (早大理工)、遠藤琢磨 (広大院工)、  
柏谷俊郎 (同志社大工)、金子俊郎 (東北大院工)、佐藤邦弘 (兵庫県大)、澤田圭司 (信大工)、清水勝宏 (原研那珂)、  
下妻 隆 (核融合研)、上瀧恵里子 (九大応力研)、白神宏之 (阪大レーザー研)、杉本敏司 (阪大院工)、鈴木千尋  
(核融合研)、高木浩一 (岩手大工)、立松芳典 (筑波大プラズマ)、田中 仁 (京大院エネ科)、力石浩孝 (核融合研)、  
内藤裕志 (山口大工)、波多江仰紀 (原研那珂)、松川 誠 (原研那珂)、松本和憲 (富山県大工)、村上定義 (京大院工)、  
森下和功 (京大エネ理工研)、八木康之 (産総研)、山崎誠一郎 (川崎重工)、湯上 登 (宇都宮大院工)、渡邊清政 (核  
融合研)、渡邊智彦 (核融合研)

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが学会編集委員会宛て送付ください。送料当方負担にてお取り替えいたします。

### プラズマ・核融合学会誌第80巻第4号

編集・発行

〒464-0075 名古屋市千種区内山3丁目1-1 4階

社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会

Tel. 052-735-3185 Fax. 052-735-3485

E-mail: jspf@nifs.ac.jp URL: http://jspf.nifs.ac.jp/

印 刷 株式会社荒川印刷

2004年(平成16年)4月25日

定価1,365円(本体1,300円)

本誌に掲載された寄稿等の著作権は(社)プラズマ・核融合学会が所有しています。

編集委員会開催日について 当学会誌の編集委員会は原則として、毎月、第1火曜日に開かれています。但し、第1火曜日が休日あるい  
は5日以降の場合はその前週の火曜日に開かれます。